

エジプト学研究第 20 号 2014 年

The Journal of Egyptian Studies Vol.20, 2014

目次

〈序文〉	吉村作治	3
〈調査報告〉		
2013 年 太陽の船プロジェクト 活動報告	黒河内宏昌・吉村作治	5
エジプト ダハシュール北遺跡発掘調査報告－第 19 次発掘調査－	吉村作治・矢澤 健・近藤二郎・西本真一・和田浩一郎	13
第 6 次ルクソール西岸アル＝コーカ地区調査概報	近藤二郎・吉村作治・柏木裕之・河合 望・高橋寿光	43
〈論文〉		
エジプト先王朝時代の穿孔技術に関する実験考古学的研究 －フリント製小型ドリルの切削能力と形状変化の観察－	長屋憲慶	59
〈研究ノート〉		
クシュの碑文を母系制として読む －即位の記録と「アララとアメン・ラーの契約」－	齋藤久美子	83
エジプト先王朝時代における石製容器の地域性	竹野内恵太	99
オブジェクト・フリーズ (<i>frise d'objets</i>) と出土遺物の比較 －装身具およびアミュレットを中心に－	山崎世理愛	115
〈動向〉		
争乱の中の大エジプト博物館建設と文化財保存修復をめぐる国際協力	高木規矩郎	131
〈活動報告〉		
2013 年度 早稲田大学エジプト学会活動報告		145
2013 年 エジプト調査概要		149
〈編集後記〉	近藤二郎	155

The Journal of Egyptian Studies Vol.20, 2014

CONTENTS

Preface	Sakuji YOSHIMURA.....	3
Field Reports		
Report of the Activity in 2013, Project of the Solar Boat	Hiromasa KUROKOCHI and Sakuji YOSHIMURA.....	5
Preliminary Report on the Waseda University Excavations at Dahshur North: Nineteenth Season	Sakuji YOSHIMURA, Ken YAZAWA, Jiro KONDO, Shinichi NISHIMOTO and Koichiro WADA.....	13
Preliminary Report on the Sixth Season of the Work at al-Khokha Area in the Theban Necropolis by the Waseda University Egyptian Expedition	Jiro KONDO, Sakuji YOSHIMURA, Hiroyuki KASHIWAGI, Nozomu KAWAI and Kazumitsu TAKAHASHI.....	43
Articles		
An Experimental Approach to the Drilling Technology in the Predynastic Period: Cutting Capability and Reduction Patterns of Flint Micro-drills	Kazuyoshi NAGAYA.....	59
Reading the Kushite Texts in the Matrilineal Context: Enthronement Records and the Covenant between Alara and Amen-Re	Kumiko SAITO.....	83
Regional Variation of Stone Vessels in Predynastic Egypt	Keita TAKENOUCI.....	99
Comparison between the <i>frise d'objets</i> and Burial Goods: Focused on the Ornaments and Amulets	Seria YAMAZAKI.....	115
Report	Kikuro TAKAGI.....	131
Activities of the Society, 2013-14.....		145
Brief Reports of Fieldworks in Egypt, 2013.....		149
Editor's Postscript.....	Jiro KONDO.....	155

第6次ルクソール西岸 アル＝コーカ地区調査概報

近藤 二郎*¹・吉村 作治*²・柏木 裕之*³
河合 望*⁴・高橋 寿光*⁵

Preliminary Report on the Sixth Season of the Work
at al-Khokha Area in the Theban Necropolis
by the Waseda University Egyptian Expedition

Jiro Kondo*¹, Sakuji Yoshimura*², Hiroyuki Kashiwagi*³,
Nozomu Kawai*⁴ and Kazumitsu Takahashi*⁵

Abstract

The team from the Institute of Egyptology at Waseda University initiated clearance, conservation and documentation at the tomb of Userhat (TT 47), Overseer of King's Private Apartment under Amenhotep III, and its vicinity at al-Khokha area in 2007. Although this tomb is one of the most important private tombs from the reign of Amenhotep III, comprehensive scientific research has not yet been conducted because its location had become unknown after the report of the tomb by Howard Carter in 1903.

In the previous seasons, we uncovered the entrance of the tomb, which has the lintel and doorjambs on both sides. They were decorated with incised hieroglyphic inscriptions and the figures of the tomb owner, Userhat. We also located the subterranean structure of the tomb through the clearance of the debris in a hole where the ceiling of the chamber was collapsed in the past. At the south side of the western rear wall of the transverse hall, we found a relief decoration which depicts Amenhotep III and Queen Tiye seated under a canopy. At the inner chamber, we found a couple of statue, probably of Userhat and his wife, was carved in the south wall of the chamber.

In this season, we continued clearance at the tomb of Userhat (TT47) and its vicinity in order to obtain more information related to the tomb. After removing the large limestone blocks, chippings, and debris from the collapse of the ceiling of the transverse hall of TT47 accumulated in front of the south side of the western rear wall, we are able to excavate a little bit further to the bottom of the hall so that the scene on the wall could be more visible than the last season. We also continued the clearance of debris covered at the southern part of the forecourt of the tomb and our clearance revealed the southern part of the forecourt.

1. はじめに

早稲田大学古代エジプト調査隊は、1972年1月にエジプト・アラブ共和国、ルクソール西岸のマルカタ南遺跡で発掘調査を開始し、1974年1月にコム・アル＝サマック（魚の丘）において、新王国第18王朝ア

* 1 早稲田大学文学学術院教授

* 2 早稲田大学名誉教授

* 3 サイバー大学世界遺産学部客員教授

* 4 早稲田大学高等研究所准教授

* 5 早稲田大学エジプト学研究所招聘研究員

* 1 Professor, Faculty of Letters, Arts and Sciences, Waseda University

* 2 Professor Emeritus, Waseda University

* 3 Visiting Professor, Faculty of World Heritage, Cyber University

* 4 Associate Professor, Waseda Institute for Advanced Study, Waseda University

* 5 Visiting Fellow, Institute of Egyptology, Waseda University

メンヘテプ3世時代の彩色階段を発見した。この発見を受けて、新王国第18王朝アメンヘテプ3世時代をその後の主な研究対象とし、アメンヘテプ3世の王宮であるマルカタ王宮址、アメンヘテプ3世時代のルクソール西岸岩窟墓や王家の谷・アメンヘテプ3世王墓の調査など、当該時代の研究を進めてきた。

こうした研究の一環として、早稲田大学エジプト学研究所は2007年度から新たにルクソール西岸、アル＝コーカ地区に位置するアメンヘテプ3世時代の岩窟墓、第47号墓を対象に調査を開始した(図1, 2)。調査の対象とした第47号墓は、アメンヘテプ3世のハーレム(後宮)の長官などを務めたウセルハトという人物の墓で、アメンヘテプ3世時代の最も重要な墓のひとつである。第47号墓は同王治世後半に特有な、レリーフ装飾と列柱を備えた大型の岩窟墓であり、この墓の構造、装飾、被葬者の称号、家族関係などを明らかにするとともに、これらの資料をもとに研究を実施し、同時代の大型岩窟墓の特質と発展を解明することを調査の目的とした。第47号墓はH.A. ラインド(Rhind)やH. カーター(Carter)などの報告により19世紀からその存在が広く知られていたものの、総合的な調査は行われておらず、調査前の時点で、墓は厚い堆積に覆われ、正確な位置すら不明となっていた。

第3次までの調査により、これまでカーターなどによって報告されていなかった第47号墓の入口と入口

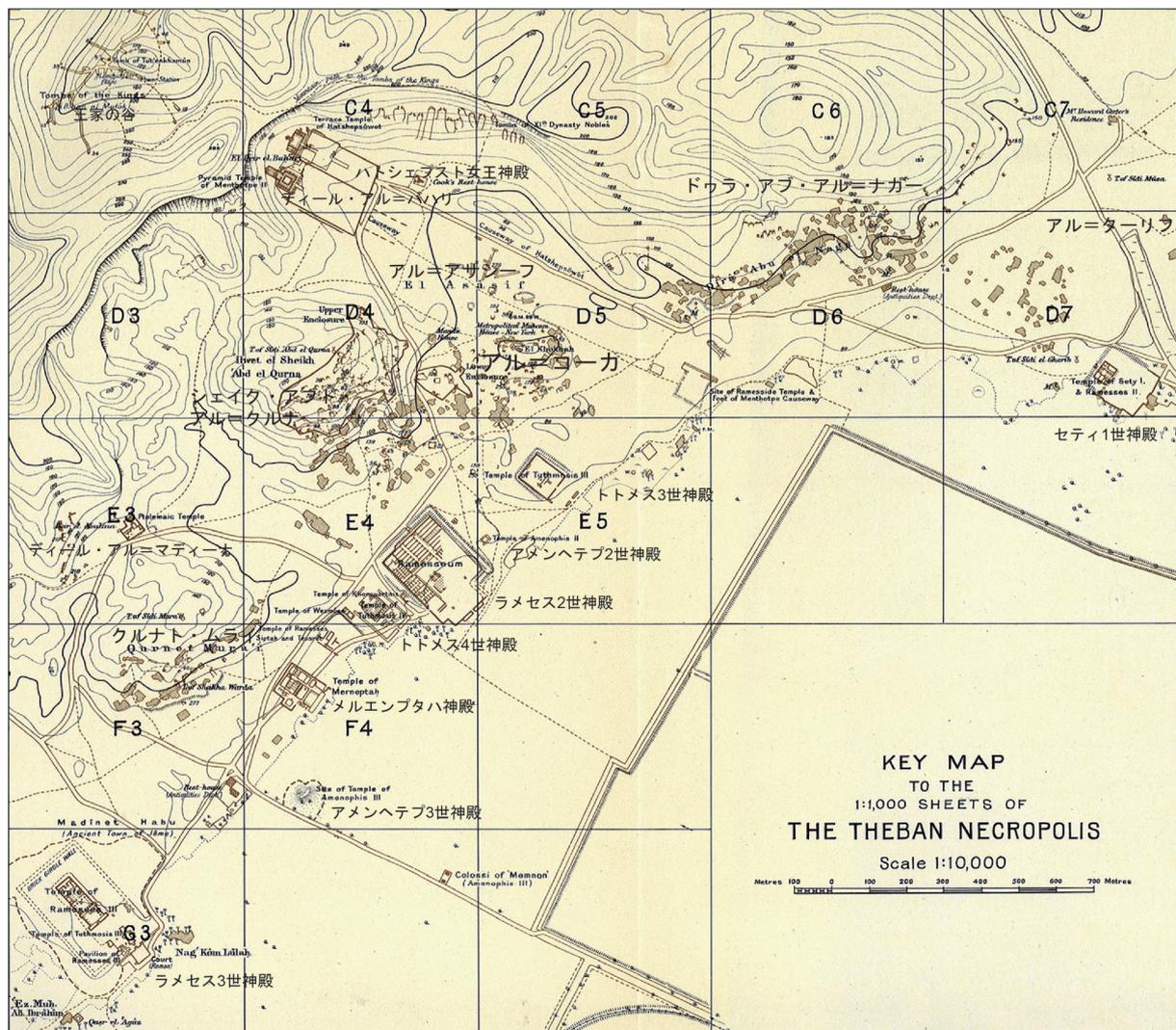


図1 ルクソール西岸地図 (Engelbach 1924: pl.II を一部改変、スケール 1:20,000)

Fig.1 Map of Theban Necropolis

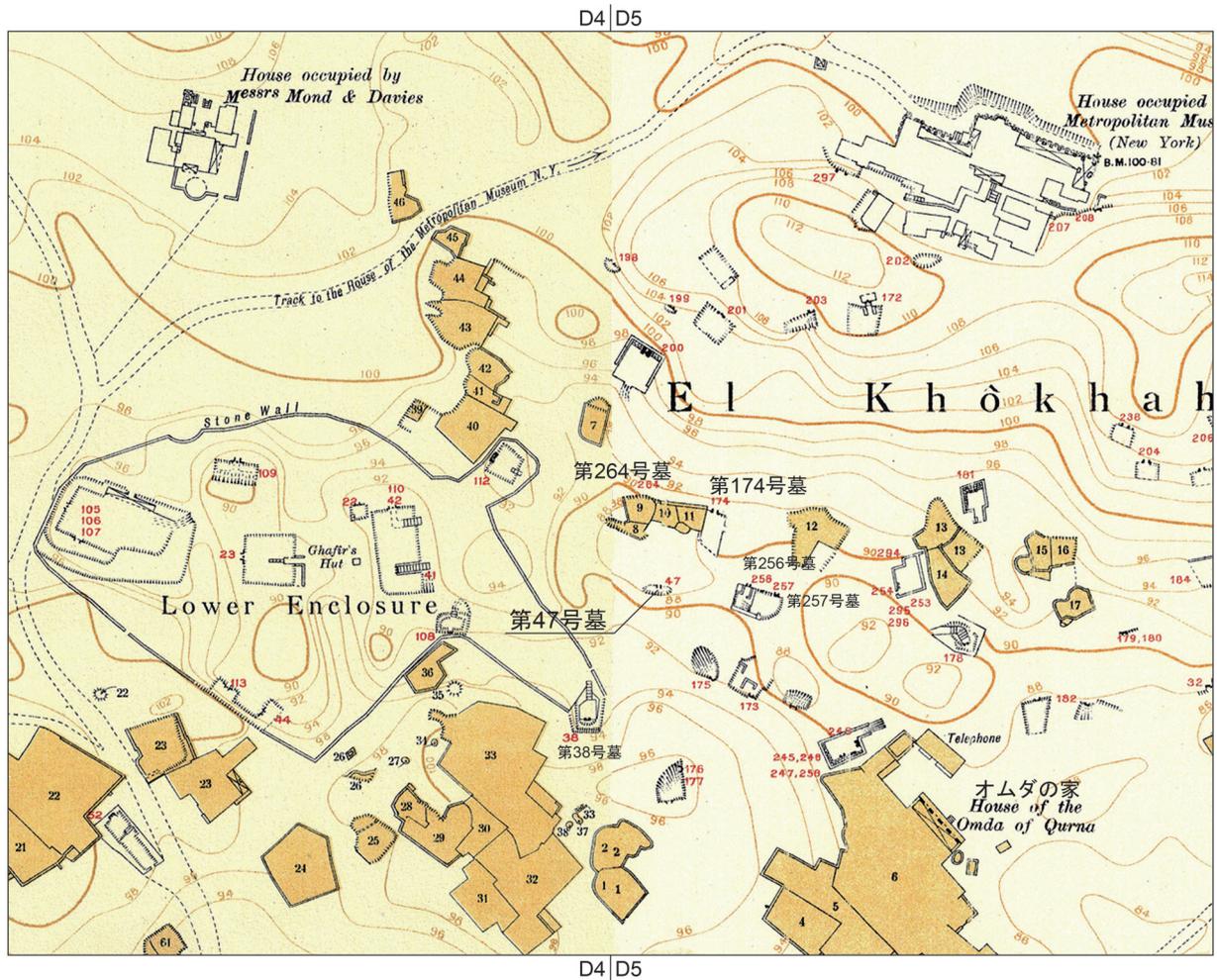


図2 アル=コーカ地区地図 (“Map of the Theban Necropolis” of Survey of Egypt from 1922 to 1924 を一部改変、スケール 1:2,000)
Fig.2 Map of al-Khokha area

両脇の脇柱を新たに発見し、入口の詳細を明らかにすることができた。脇柱には、南北それぞれ垂直方向に5行の碑文が刻まれており、下部には被葬者であるウセルハトが座った姿で描かれている。また、脇柱の碑文から、これまで知られていたウセルハトの称号「王のハーレムの長官 (*imy-r ipt nswt*)」に加え、「王宮の印綬官の監督官 (*imy-r htmtyw nw pr-nswt*)」という別の称号が明らかになった。更に、第192号墓(ケルエフ墓)のように、ウセルハトの名前や図像の顔などが意図的に削られた痕跡も確認された。続く第4次調査においては、前室天井崩落箇所の掘り下げを行い、内部の状況を確認した。この際、前室には柱を繋ぐ「梁」がみられ、前室から奥室に至る通路の存在も確認された。

第5次調査においては、今後の発掘、保存修復に向け、第47号墓内部の状況確認を目的として発掘調査を実施し、前室奥壁(西壁)の南側では浅浮彫のレリーフ装飾と碑文を発見した。第47号墓出土の王妃ティイのレリーフが現在ブリュッセル王立美術・歴史博物館に収蔵されているが、この部分から持ち出されたものである事を確認した。また、並行して、第47号墓の北側に位置する第174号墓、第264号墓の保存修復作業を実施した。

この成果を受け第6次調査では、第47号墓前室奥壁(西壁)周辺のクリーニングを中心に調査を実施した。同時に、将来同墓前庭部を発掘するために、前庭部南側の堆積の土砂除去作業を行い、日乾煉瓦を積んだ擁壁を設置した(図3)。

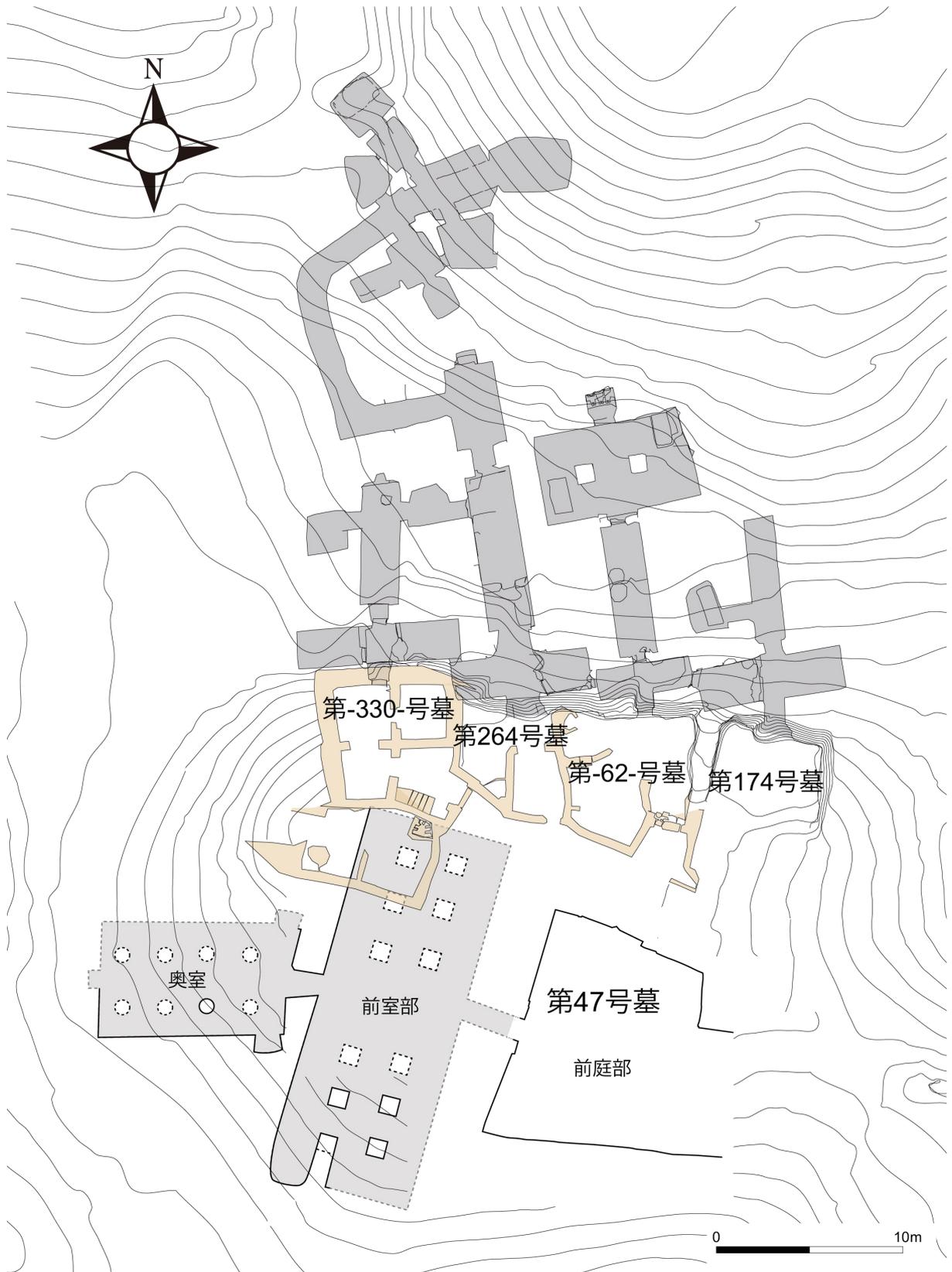


図3 第47号墓およびその周辺地図 (第6次調査終了時)

Fig.3 Map of TT47 and its vicinity

本稿では、こうした経緯と調査目的のもと、ルクソール西岸アル=コーカ地区の第47号墓および周辺において2012年度に実施した第6次調査について報告を行う。

2. 第47号墓の調査

(1) 第47号墓前室奥壁周辺の発掘調査

第5次調査において、第47号墓前室奥壁（西壁）南側のレリーフ装飾と碑文を発見した。この壁面のモチーフは、キオスクに座るアメンヘテプ3世とティイの像を礼拝する被葬者ウセルハトを表したもので、第5次調査の時点ではキオスクの上部と王と王妃の図像の最上部、それらの左（南）側に位置する縦7行の銘文帯が確認された。第6次調査では、図像と碑文の全体を把握するために、さらにこの壁面の周辺の発掘調査を実施した。

これまで報告しているように、第47号墓の前室が穿たれた石灰岩岩盤の状況は極めて悪く、天井が崩落し、無数の亀裂が見られる。前室奥壁（西壁）周辺の石灰岩岩盤の状況も例外ではない。壁から1mほどで天井部分は崩落しており、大小の石灰岩の塊、破片が散乱している状況であった。前回の調査に引き続き安全を確認しながらこれらの石灰岩の破片を除去する作業を継続した。

その結果約1mの堆積を除去し、レリーフで表現されたキオスク内に座るアメンヘテプ3世とティイ王妃の図像の状況を把握することができた（写真1）。前述のとおり、ティイ王妃の浮彫は、現在ベルギーのブリュッセル王立美術・歴史博物館に収蔵されているが、第5次調査では王妃の冠の2枚羽根飾りの上部と王妃を示す碑文の一部 $r-p^c\text{ut } \text{?}(t) \text{ // // //}$ 「偉大なる女性世襲貴族…」とあることからティイ王妃のレリーフが本来あった場所であることが確認された。また、この部分の写真はハワード・カーターが1903年のエジプト考古局の年報の中で公表している（Carter 1903: Fig.1）。ブリュッセル王立美術・歴史博物館に収蔵されているティイ王妃のレリーフが本来あった部分は、平坦に鋸で削り取られた痕跡を残していた。ティイ王妃の図像は、胸から腰のあたりまでの約15cmの部分が原位置を留めており、左手でロータスの花を掴む様子が表されているが、腰から下の腰掛け椅子の図像を含む部分も同様に鋸で削り取られている状況が確認された。アメンヘテプ3世の図像は、上半身の左側半分が辛うじて原位置を留めているが、顔の部分、上半身右側、玉座から下の部分が削り取られたか崩落した状況であった。前述のカーターが報告した写真ではアメンヘテプ3世の左肩と左腕の一部と玉座の一部が見られるが、残存部からアメンヘテプ3世は、翼の装飾のある玉座に座り、右手にヘカ笏、左手にネケク殻笏を持ち、「シェビウ (*šbyw*)」と呼ばれる特徴的な二重の首飾りを身に付けていることが明らかとなった。同様な表現は、同時代の大型岩窟墓であるケルエフ墓（第192号墓）のアメンヘテプ3世像にも見られる（Epigraphic Survey: Pls.48, 49）。キオスクの前に刻された縦7行の銘文帯の下には、被葬者ウセルハトがアメンヘテプ3世とティイ王妃に向かって礼拝する姿勢で表現されていた。ウセルハトの鬘の浮彫は未完成で、顔の部分は鑿で意図的に破壊された痕跡を示していた。

(2) 第47号墓前庭部南側の発掘調査

第47号墓前庭部の南側には非常に厚い堆積土があり、第2次調査より掘り下げ作業を継続してきた。今次調査では、前庭部の南壁と南西角を確認することができた。また、この前庭部南側の岩盤上に堆積する石灰岩チップ層は間に風成の黄色砂層を挟み、2層に分層された。後述するように、出土した土器の分析から、上層は第18王朝末期、下層は第18王朝中期に年代づけられた。

さらに、今回は来期調査での前庭部の発掘調査を見据えて、土砂を除去した石灰岩の岩盤直上に日乾煉瓦製の2段の段差を持つ擁壁を築いた（写真2）。



写真1 第47号墓前室西壁南側のレリーフ

Photo 1 Relief decoration on the south side of the western rear wall of the transverse hall



写真2 第47号墓およびその周辺、今期調査終了時（北東より南西に臨む）

Photo 2 TT47 and its vicinity after the fifth season, looking from north-east

3. 主要出土遺物

以下では、今回の調査において、第47号墓およびその周辺で取り上げた遺物のうち主要なものについて記述する。

(1) レリーフおよび彫像片

第47号墓前室奥壁（西壁）付近の発掘調査において多数の石灰岩製レリーフ片が出土した。これらは、第47号墓の壁面装飾を構成していたものである。特徴的なものでは、縦の銘文帯にラー（*R^c*）の文字が刻まれた水平の玉縁、前室から奥室に入る入口脇に装飾された縦のブロック・ボーダーの一部、ヒエログリフが刻まれた破片などである。ヒエログリフの刻まれた破片には、*…nbt t3wy h^c…*「二国の女主人、…出現する者…」と読めるものがあり、形容辞からティイ王妃を示したものであることが推測される（図4-1）。女性の鬘を装飾した彫像の破片も出土しており、規格から判断すると、第47号墓奥室のウセルハトとその妻の彫像の一部であった可能性が高い。

(2) シャブティ

第47号墓前庭部南側の発掘では、多くの第3中間期および末期王朝時代に年代づけられるシャブティが出土した（図4-2～8）。ほとんどのシャブティは素焼き製で、僅かにファイアンス製のものがあつた。ファイアンス製シャブティの中には、*3sir w^cb n Imn*「オシリス、アメン神のウアブ神官」と記されているものがあつた（図4-9）。これらの類例は、同じアル=コーカ地区の第253号墓、254号墓、294号墓などに見られる（Strudwick and Strudwick 1996: 105, Pl.35. Ct.86g）。

(3) 葬送コーン

今次調査においても多くの葬送コーンが出土した。第47号墓の被葬者であるウセルハト（*Wsr-h^ct*）の葬送コーン（Davies and Macadam 1957: #406）は3点で、うち2点は四角錐の形状をしており、そのうちの1点は1辺が接する2面にスタンプが捺されていた（図5-1）。これは、おそらくコーナー部分に置かれていたものと推測される。今回出土のものを含めるとこれまで出土したウセルハトの葬送コーンは17点となる（近藤他 2013: 114）。

また周囲の岩窟墓に由来すると考えられるのが2点のヘミィ（*Hmy*）の葬送コーンである（Vivó and Costa 1998: 619, A.08）。これは第256号墓に由来すると考えられる（Mostafa 1995: 76）（図5-2）。その他には、センネフェル（*sn-nfr*）（Davies and Macadam 1957: #423）（図5-3）、ロマ（*Rm*）（Davies and Macadam 1957: #489）（図5-4）、ナクト（*Nht*）（Davies and Macadam 1957: #235）（図5-5）、ネブアメン（*Nb-Imn*）（Davies and Macadam 1957: #558）（図5-6）、メンチュウ（*Mntw*）（Davies and Macadam 1957: #362）（図5-7）、ヘビ（*Hby*）（Davies and Macadam 1957: #15）（図5-8）、アアケペルラー・セネブ（*3-hpr-R^c snb*）（Davies and Macadam 1957: #372）（図5-9）などである。これらの葬送コーンはほとんどが第47号墓前庭部南側の堆積土砂で出土したものである。

(4) 木棺片

木棺の破片も多く出土している。部位は、蓋、身、耳、足などの一部で木製あるいはカルトゥナーージュ製である（木製：図6-1～2、カルトゥナーージュ製：図6-3～9）。年代はラメセス朝からプトレマイオス朝時代までと多岐にわたる。

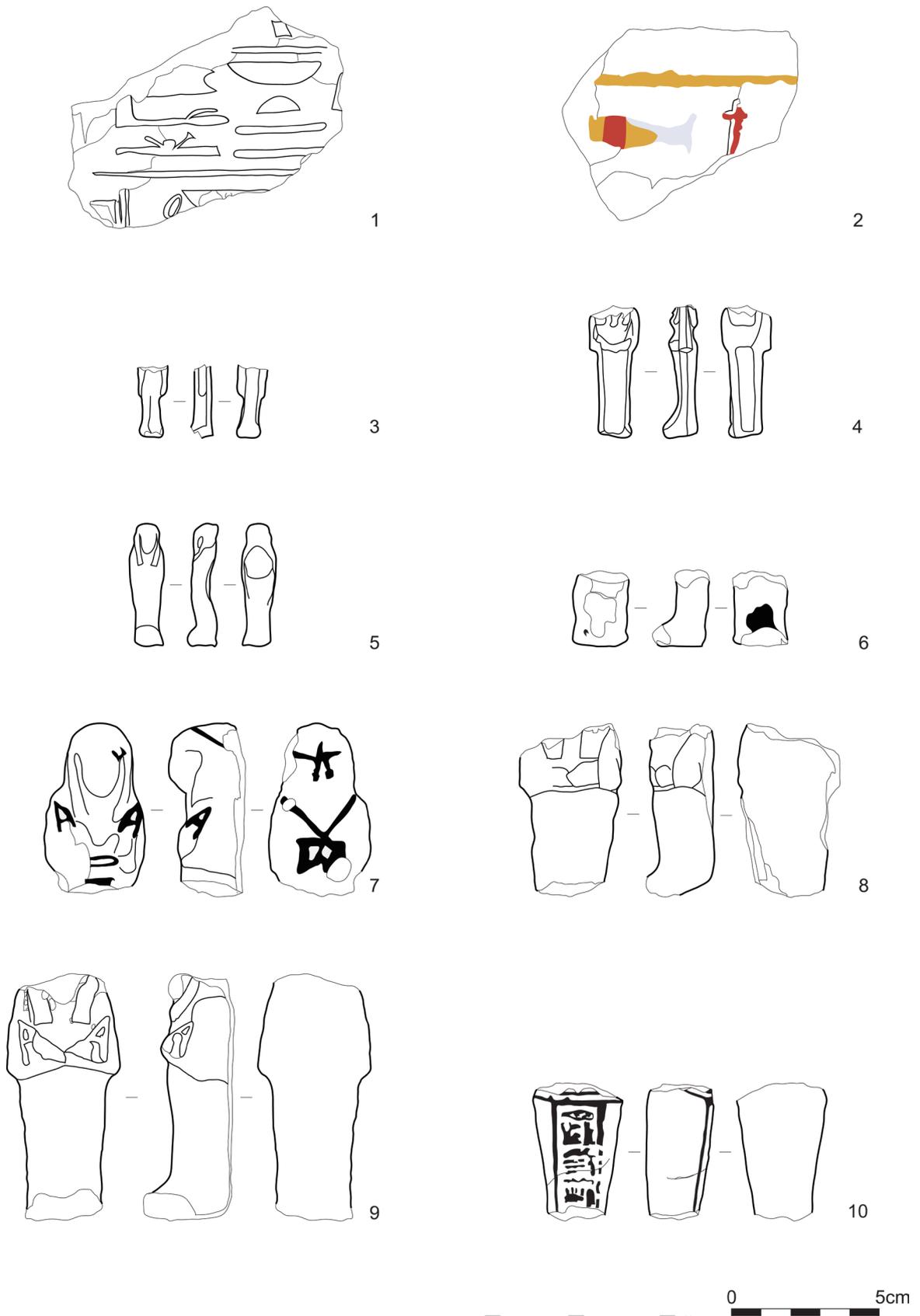


図4 第47号墓およびその周辺出土遺物 (1)
 Fig.4 Major finds from TT47 and its vicinity (1)

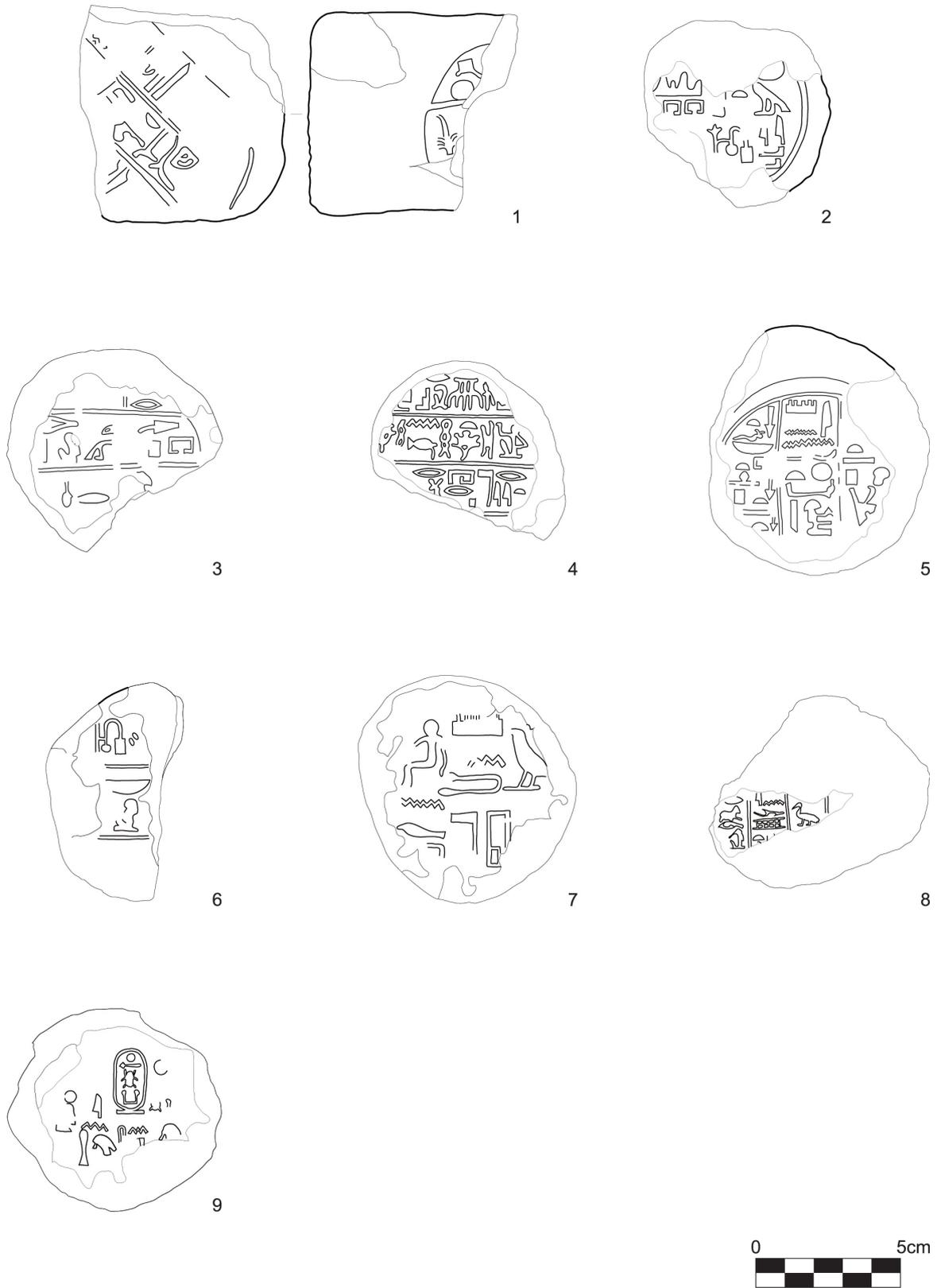


図5 第47号墓およびその周辺出土遺物(2)
Fig.5 Major finds from TT47 and its vicinity (2)



図6 第47号墓およびその周辺出土遺物 (3)
 Fig.6 Major finds from TT47 and its vicinity (3)

(5) 土器

今期調査では、主に第47号墓前庭部南側の岩盤上に堆積した石灰岩チップ層から新王国時代の土器が出土した。石灰岩チップ層は間に風成の黄色細砂を挟み、2層に分割され、それぞれ特徴的な土器が出土している。

下層からは、皿形土器(図7-1)、アンフォラ(図7-2～3)が出土しており、いずれも内部にプラスターが入っていた。アンフォラについては、頸部付け根の部分が平坦に2次加工されていることから、アンフォラ(ワイン容器)からプラスター容器として墓造営の際に再利用されたと考えられる。皿形土器、アンフォラの類例は、トトメス3世の外国人妻の墓などに見られることから(Lilyquist 2003: Figs.62, 75-77)、これらは第18王朝中期に年代付けられる。

上層からはいわゆる「ビール壺」と呼ばれる壺形土器が出土した(図7-4～5)。類似した壺形土器は、マルカタ王宮からの出土がよく知られており(Hope 1989: Fig.2.f)、第18王朝後期に年代付けることができる。

新王国時代の土器を含む岩盤上に堆積する石灰岩チップ層は、第47号墓前庭部の前室の天井上にもあり、そこに含まれる土器は、第47号墓の造営の際の儀式および造営活動に使用された土器が、墓の岩盤の掘削廃土とともに廃棄された可能性が想定されている(近藤他 2012: 12-14, 図6)。今期調査で発見された前庭部上の岩盤に堆積する石灰岩チップ層の土器も、傾向が類似することから、同じように墓の岩盤の掘削排土とともに廃棄された可能性が考えられる。

4. まとめ

2012年度の第6次調査では、大きく2カ所で発掘調査を実施した。まず、第47号墓の前室奥壁(西壁)南側付近では、前回の調査でキオスクに腰掛けるアメンヘテプ3世とティイ王妃のレリーフが確認され、さらにレリーフの状態を確認すべく下部に掘り進め、クリーニングを継続した。その結果、新たに玉座に座るアメンヘテプ3世の図像の詳細や未完成の被葬者ウセルハトの図像の存在が明らかになった。今後は、さらに下部に掘り進めることで同時代のレリーフ墓にみられるような「九弓の民」の図像等の確認をしていきたい。次に、第47号墓前庭部の南側に堆積した土砂の除去を行った。今次調査では、前庭部の南西角と南壁を確認することができた。また、前庭部南側の岩盤上に堆積した石灰岩チップ層は風成の黄色細砂層を挟んで分層され、土器の年代から上層が第18王朝末期、下層が第18王朝中期に年代づけられた。その他の灰色砂礫層からは現代の民家由来のものも含めた多岐にわたる遺物が混入しており、中からシャブティ、葬送コーン、木棺片、土器片などが大量に出土した。最後に、前庭部南壁上の岩盤直上の土砂堆積を除去後、来期以降の調査での前庭部の発掘調査を見据えて、日乾煉瓦製の擁壁を築いた。

以上、第6次調査の成果の概要を述べた。来期以降も発掘調査、出土遺構・遺物、保存修復作業を継続し、第47号墓とその周辺の墓について更に明らかにしていきたい。

なお、本調査は、2012年度の早稲田大学特定課題研究(2012B-026)「テーベ岩窟墓第47号(ウセルハト墓)の研究」の助成によるものである。

謝辞

エジプト現地調査では、エジプト・アラブ共和国考古省大臣ムハンマド・イブラヒーム閣下、古代エジプト部部長ムハンマド・ビアーリー博士(当時)、外国調査隊管轄事務局長ムハンマド・イスマイル博士、上エジプト総局長 Mansour・ボライク氏、上エジプト・ルクソール考古局長ムハンマド・アセム・アブド・アル=サボール氏、カルナク神殿査察局長イブラヒム・ソリーマン氏、ルクソール西岸クルナ査察局長ムハ

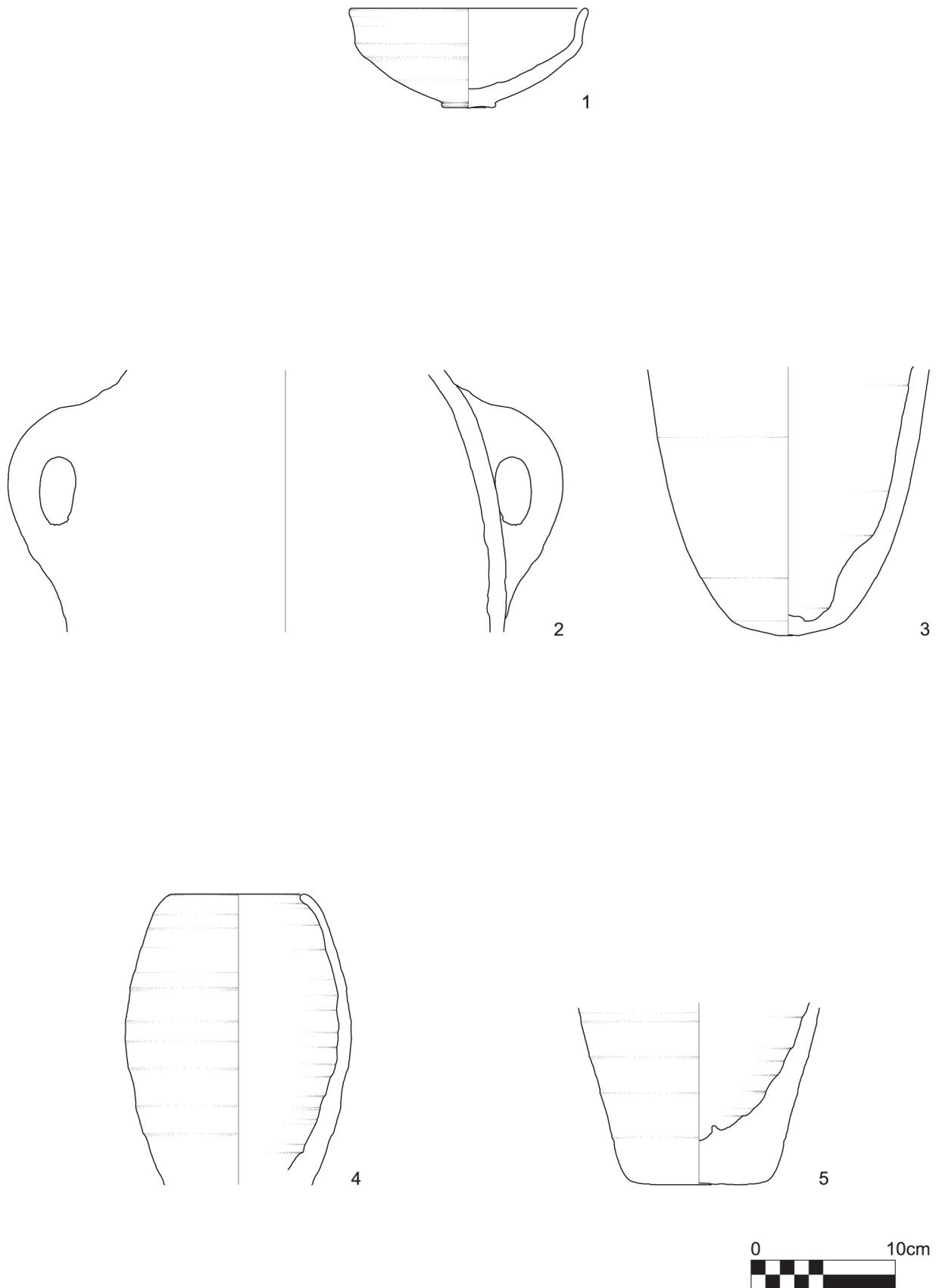


図7 第47号墓およびその周辺出土遺物 (4)
 Fig.7 Major finds from TT47 and its vicinity (4)

ンマド・アブド・アル=アジーズ氏、副局長ノール・アブドアル=ガファル・ムハンマド氏、査察官アスマー・カマル・アル=ディーン・アハマド氏、アフファフ・ムハンマド・マハムード氏、外国調査隊管轄クルナ事務局ムハンマド・アリー・ハムダン氏をはじめとする方々に多大なご協力を頂いた（肩書きは調査当時のもの）。

また、図版の作成には早稲田大学エジプト学研究所の学生ボランティア福田莉紗、石崎野々花の協力を得た。

ここに記して感謝の意を表する。

註

- 1) マルカタ南遺跡のコム・アル=サマック（魚の丘）における調査に関しては主に以下を参照（古代エジプト調査委員会編 1983）。
- 2) マルカタ王宮址の調査は主に以下を参照（早稲田大学古代エジプト建築調査隊編 1993）。ルクソール西岸岩窟墓の一連の調査は主に以下を参照（早稲田大学エジプト学研究所編 2002, 2003, 2007）。また王家の谷・アメンヘテプ3世王墓における調査は主に以下を参照（Kondo 1992; 1995; Yoshimura and Kondo 1995; Yoshimura and Kondo (eds.) 2004; Yoshimura et al. 2005; 吉村 1993; 吉村、近藤 1994; 2000; 河合他 2001; 吉村他 2005, 2013a, b; 高橋他 2013）。
- 3) 第47号墓の研究史、研究上の問題点、アメンヘテプ3世時代の大型岩窟墓の問題について詳しくは以下を参照（近藤 1994）。その他、アメンヘテプ3世時代の大型岩窟墓についてはD. アイクナー（Eigner）の論考を参照（Eigner 1983）。
- 4) これまでの報告としては、ラインドによるウセルハトの葬送コーンの報告（Rhind 1862: 137）、ハワード・カーターによる第47号墓の構造に関する記述やウセルハトの葬送コーン、王妃ティイのレリーフ写真などの報告（Carter 1903: 177-178, pl.II）、A.E.P. ウェイゴール（Weigall）の記述（Weigall 1908: 125）などが挙げられる。またベルギーのブリュッセル王立美術・歴史博物館には第47号墓由来の王妃ティイのレリーフが収蔵されている（van de Walle et al. 1980: 18-20, figs.3, 4）。
- 5) これまでの調査については以下を参照（近藤他 2009; 2010; 2011; 2012; 2013）。
- 6) 調査は2012年12月23日から2013年1月12日まで実施された。調査の参加者は以下の通りである。考古班：吉村作治、近藤二郎、河合 望、高橋寿光、竹野内恵太、福田莉紗、建築班：柏木裕之、渉外：吉村龍人、ムハンマド・アシュリー。
- 7) 類似したアンフォラの再利用は、アメンヘテプ3世王墓でも見られる（高橋他 2009: 87）。

参考文献

- Aston, D.A.
2004 “Amphorae in New Kingdom Egypt”, *Ägypten und Levante XIV*, pp.175-214.
- Aston, D.A. and Aston, B.G.
2001 “The Pottery”, in Martin, G.T., van Dijk, J., Raven, M., Aston, B.G., Aston, D.A., Strouhal, E. and Horáčková, L., *The Tombs of Three Memphite Officials, Ramose, Khay and Pabes*, London, pp. 50-61.
- Bourriau, J., Nicholson, P.T and Rose, P.
2000 “Pottery”, in Nicholson, P.T. and Shaw, I. (eds.), *Ancient Egyptian Materials and Technology*, Cambridge, pp.121-147.
- Carter, H.
1903 “Report of work done in upper Egypt (1902-1903)”, *Annales du Service des Antiquités de l'Égypte* 4, pp.171-180.
Collins, L.
1976 “The Private Tombs of Thebes: Excavation by Sir Robert Mond 1905 and 1906”, *The Journal of Egyptian Archaeology* 62, pp.18-40.
- Davies, N. de G. and Macadam, M.F.L.
1957 *A Corpus of Inscribed Egyptian Funerary Cones*, Oxford.
- Eigner, D.
1983 “Das Thebanische Grab des Amenhotep, Wesir von Unterägypten: Die Arkitektur”, *Mitteilungen der Deutschen*

- Archäologischen Instituts Abteilung Kairo* 39, pp.39-50.
- Epigraphic Survey
1980 *The Tomb of Kheruef: Theban Tomb 192*, Chicago.
- Holthoer, R.
1977 *New Kingdom Pharaonic Sites: The Pottery*, Scandinavian Joint Expeditions Vol.5:1, Lund.
- Hope, C.A.
1989 “The XVIII Dynasty Pottery from Malkata”, in Hope, C.A., *Pottery of the Egyptian New Kingdom: Three Studies*, Burwood, pp.3-44.
- Kondo, J.
1992 “A Preliminary Report on the Re-clearance of the Tomb of Amenophis III”, in Reeves, C.N. (ed.), *After Tutankhamun: Research and Excavation in the Royal Necropolis at Thebes*, London and New York, pp.41-54.
1995 “The Re-clearance of Tombs WV 22 and WV A in the Western Valley of the Kings”, in Wilkinson, R.H. (ed.), *Valley of the Sun Kings: New Explorations in the tombs of Pharaohs*, Tucson, pp.25-33.
- Lilyquist, C.
2003 *The Tombs of Three Foreign Wives of Tuthmosis III*, New York.
- Mostafa, M.F.
1995 *Das Grab des Neferhotep und des Meh (TT 257)*, Theben VIII, Mainz am Rhein.
- Nordström, H.-Å and Bourriau, J.
1993 “Ceramic Technology: Clays and Fabrics”, in Arnold, D. and Bourriau, J. (eds.), *An Introduction to Ancient Egyptian Pottery*, Mainz am Rhein, pp.143-190.
- Ranke, H.
1952 *Die ägyptischen Personennamen*, Band I, II, Glückstadt.
- Rhind, A.H.
1862 *Thebes: Its Tombs and Their Tenants, Ancient and Present: A Record of Excavations in the Necropolis*, London.
- Strudwick, N and Strudwick, H.
1996 *The Tombs of Amenhotep, Khnumose, and Amenmose at Thebes (Nos. 294, 253, and 254)*, Oxford.
- Taylor, J.H.
1989 *Egyptian Coffins*, Princess Risborough.
- van de Walle, B., Limme, L. and De Meulenaere, H.
1980 *La collection égyptienne, Les étapes marquantes de son développement*, Bruxelles.
- Vivó, J. and Costa, S.
1998 “Funerary cones Unattested in the Corpus of Davies and Macadam (Annex I)”, *Bulletin de la Société d'Égyptologie de Genève* 22, pp.59-72.
- Weigall, A.E.P.
1908 “Report on the Tombs of Shékh abd' el Gürneh and el Assasif”, *Annales du Service des Antiquités de l'Égypte* 9, pp.118-136.
- Yoshimura, S., Capriotti, G., Kawai, N. and Nishisaka, A.
2005 “A Preliminary Report on the Conservation Project of the Wall Paintings in the Royal Tomb of Amenophis III (KV 22) in the Western Valley of the Kings: 2001-2004 Seasons”, *MEMNONIA* XV, pp.203-212.
- Yoshimura, S. and Kondo, J.
1995 “Excavation at the tomb of Amenophis III”, *Egyptian Archaeology* 7, pp.17-18.
- Yoshimura, S. and Kondo, J. (eds.)
2004 *Conservation of the Wall Paintings in the Royal Tomb of Amenophis III -First and Second Phases Report-*, Tokyo.
- 河合 望、吉村作治、近藤二郎、ジョルジョ・カプリオッティ
2001 「アメンヘテプ III 世王墓保存修復プロジェクト予備調査概報」、『エジプト学研究』第9号、早稲田大学エジプト学会、pp.39-45.
- 古代エジプト調査委員会編
1983 『マルカタ南〔I〕 一魚の丘<考古編・建築編>一』、早稲田大学出版部。

近藤二郎

1994 「テーベ私人墓第47号」、『エジプト学研究』第2号、早稲田大学エジプト学会、pp.50-60.

近藤二郎、吉村作治、菊地敬夫、柏木裕之、河合 望、西坂朗子、高橋寿光

2009 「第1次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第15号、早稲田大学エジプト学会、pp.39-70.

2010 「第2次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第16号、早稲田大学エジプト学会、pp.47-77.

2011 「第3次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第17号、早稲田大学エジプト学会、pp.45-63.

2012 「第4次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第18号、早稲田大学エジプト学会、pp.5-20.

近藤二郎、吉村作治、柏木裕之、河合 望、高橋寿光

2013 「第5次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第19号、早稲田大学エジプト学会、pp.107-120.

高橋寿光、吉村作治、近藤二郎

2009 「2006年-2007年度アメンヘテプ3世王墓出土土器調査概報」、『エジプト学研究』第15号、pp.71-92.

高橋寿光、西坂朗子、阿部善也、中村彩奈、中井 泉、吉村作治

2013 「アメンヘテプ3世王墓壁画に使用された顔料の化学分析」、『エジプト学研究』第19号、pp.59-96.

吉村作治、近藤二郎

1994 「アメンヘテプ3世王墓の調査について エジプト・ルクソール西岸、王家の谷西谷調査報告」、『人間科学研究』第7巻第1号、pp.187-199.

2000 「王家の谷・西谷調査報告-1992年8月~2000年1月-」、『エジプト学研究』第8号、pp.57-64.

吉村作治、近藤二郎、河合 望、西坂朗子、瀬戸邦弘、高橋寿光、中右恵理子

2005 「アメンヘテプ3世王墓保存修復作業概報：2001年3月~2004年3月」、『エジプト学研究』第13号、pp.5-21.

吉村作治、西坂朗子、高橋寿光

2013 「第3期アメンヘテプ3世王墓壁画保存修復プロジェクト概報」、『エジプト学研究』第19号、pp.43-58.

吉村作治、苅谷浩子、西坂朗子、高橋寿光

2013 「アメンヘテプ3世の石棺蓋の保存修復作業概報」、『エジプト学研究』第19号、pp.97-106.

早稲田大学エジプト学研究所編

2002 『ルクソール西岸岩窟墓〔I〕-第241号墓と周辺遺構-』、早稲田大学エジプト学研究所.

2003 『ルクソール西岸岩窟墓〔II〕-第318号墓と隣接する墓-』、株式会社アケト.

2007 『ルクソール西岸岩窟墓〔III〕-第333号墓、A.21号墓、A.24号墓、W-4 (Nr.-127-)号墓-』、株式会社アケト.

エジプト学研究 第20号

2014年3月31日発行

発行所 / 早稲田大学エジプト学会

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

早稲田大学エジプト学研究所内

発行人 / 吉村作治

The Journal of Egyptian Studies No.20

Published date: 31 March 2014

Published by The Egyptological Society, Waseda University

1-104, Totsuka-chyo, Shinjyuku-ku, Tokyo, 169-8050, Japan

© The Institute of Egyptology, Waseda University